

## 社会保障と経済発展

Kurt Tantz (西ドイツ)

本稿には、工業化された社会における社会保障の発達と経済発展の関係が、経済的な観点から論述されている。

人びとは社会的な関係の仕組みの中だけに孤立して、生存を続けるのに必要な所得の保障を守ることができない。特殊な場合には、この所得の確保は労働の過程に参加することによって生ずる第一義的な所得と、各人の相互関係や時間外勤務による再分配から生ずる第二次的な所得で構成される。

所得保障は2重の効果をもっている。所得保障は当人の性向と能力を開発し、かつ維持することによって、当人にその生活を続けさせ、また、当人が生計の手段を自分で用意できないときに、その手段を用意させる。同時に、所得保障は各人がある安定した所得を自分で調達する社会的な仕組みとして、また、生産過程の活動に積極的に参加している人びとの所得と、各種の理由により、そのような活動に従事できない人びとの所得との間に、ある適切な関係を維持する社会的な仕組みとして役立っている。

社会保障は人間の生存に欠くことのできない必要なものである。意見の相違は給付の範囲、水準、限界、および型から生ずるし、また、社会保障の制度を組み上げる型からも生ずる。

社会保障で保護される人びとの人数は、次第に増加している。所得保障を確保する目的は、給付の金額、限界、および型に拡大をもたらしている。

現金給付を賃金に関連づけることは、社会保障と経済発達が一緒に結びつけられ、かつその結果、ある最低の判断基準が定められていることを意味している。

保障に対する人びとのニードは、ある与えられた時点において、当人がその時に置かれた状況と関連をもっている。経済が発展する時期では、現金給付と現物給付は増大する。一般的な表現では、社会保障の給付総額は近年増えてきた。

しかし、基本的には、社会保障が経済変動の諸問題の解決に適切でないということは指摘されるべきである。これは議会によって承認されてきた。

要約すれば、次のようなことがいえるであろう。

経済成長は社会保障の拡大を可能にする。生産過程で活動する人びとの生活水準に生ずる上昇は、労働によって取得された立場を維持するために、ニードの拡大という結果をもたらすので、経済成長は社会保障の拡充を求める。社会保障は労働力の開発と維持を促進することによって、構造的な諸問題の解決に寄与することによって、また、消費の観点から経済安定の要素として機能することによって、経済成長に役立っている。

*Soziale Sicherheit and wirtschaftliche Entwicklung, Die Ortskrankenkasse, 53rd Year, No. 21/22, 1971, pp. 777-780; 72/73, No. 103.*